



TITLE:

支那の村落

AUTHOR(S):

宮本, 又次

---

CITATION:

宮本, 又次. 支那の村落. 經濟論叢 1939, 48(2): 426-429

ISSUE DATE:

1939-02-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/131206>

RIGHT:

# 東京帝國大學經濟學會 經濟叢論

第十四卷(第二號)

昭和十四年二月

## 論叢

貨幣的利子論の吟味……………文學博士 高田保馬  
中小都市における商店街の構成……………經濟學博士 谷口吉彥

## 時論

最近に於ける通貨收縮性の遲緩……………經濟學博士 小島昌太郎  
事變下に於ける漁村對策……………經濟學博士 蜷川虎三

## 研究

豫想の構造の分析……………經濟學士 青山秀夫  
莫大小業の生産形態……………經濟學士 堀江英一

カルブンの利子と自然法……………經濟學士 澤崎堅造

經營分析における比較の意義と形態……………經濟學士 岡部利良

## 說苑

支那の村落……………經濟學士 宮本又次  
財政統計の地方比較……………經濟學博士 汐見三郎

## 附錄

彙報  
外國雜誌論題

(禁轉載)

# 説苑

## 支那の村落

宮本 又次

田舎居住 (*habitat rural*) に團集型と分散型との二型式を認めようとする努力は、從來人文地理學者の間に於て試みられてゐる所である。集村・大村・集團居住 (*habitat groupé*) と散村・小村 (*hameaux*)・散在居住 (*habitat dispersé*) に類別する觀點から、支那の村落は如何に認定され來つたか。これに關する二・三の說を窺ふことにする。

### 二

佛蘭西人文地理學樹立者たるの榮譽を荷なふべきポール・ヴィダル・ド・ラ・ブラアシユ (*Paul Vidal de la Blache*) はその遺著「人文地理學原論」に於て、聚落の分類型式を實證によりて見出し、これを分散居住 (*habitat*

*disséminé*) と團集居住 (*village aggloméré*) とにしてゐるが、この見地から支那の村落をも眺めてゐる。彼は全體に於て北支那は團集居住であるが、南方は分散居住であるとしてゐる。北支那に於ける土地の一樣性は集合に適當であるが、南方へ、河南から湖北へ、或は二大河の間で山東から江蘇へ、殊に揚子江以南で湖南及浙江又西方四川の富有な省へ進むと、氣候及土壤の變化の影響が、農村居住の體制の上に感ぜられる様になる。家屋散布の傾向が段々著しくなり、或は居住は段をなす茶園に沿ふ斜面の頂きに及び、或は夏其處で稲作に必要な水を得るに少々高きに過ぎるやと思はれる程の土地にまで住居が選ばれてゐる。彼は E. Tiessen の「支那」の圖にある漢江上流の灌溉段丘上の農家を例として示し、家族群落の風習が之に應じてゐるとしてゐる。即ち枝分れた多數の子孫が、信仰や習慣で固められ、先祖のまわりに小群をなしてゐると述べる。

### 三

北方は集村、南下するにつれて散村をとるとの見解は彼の流れを汲む高弟の一人たるドマンデヨン (*A. Demangeon*) にそのまゝ受け繼がれた。ドマンデヨン

1) Vidal de la Blache, *Principes de Géographie humaine*, pp. 169 et sqq. pp. 190—193, 彼の説明は Richthofen, *China* 1, p. 405, Tiessen, *China*, p. 339 に主として依つてゐる。

は北方支那の平野に於ては集村が支配的であるとしてゐる。而して揚子江地域より南に進むにつれて、家屋は耕作された山腹に散在し、畠や菜園の間に小さな村が散在してゐると述べてゐる。<sup>2)</sup> ドマンデヨンは田舎居住の型式上に反映すべき影響を、(一)自然的條件の影響、(二)社會的條件の影響、(三)農業經濟の影響の三に分ち考察してゐるが、自然的條件として、まづ地勢を挙げ、平野は集村に適せるも、山嶽や狹隘な地域は獨立家屋や小村を多くすると述べ、北支那に於ける擴がれる平原と地形の一樣性は集村を當然に實現したと指摘してゐる。而して水害に對し守る必要から屢々團集居住が導き出されたとし、又到る所水利の便よき所にては居住は散在するも、水利の便少き地では集中するとの基準を樹てゐる。この基準は支那村落の場合にも亦當てはまるのであらう。ドマンデヨンは團集居住の方がいづれかと云ふと原始的形態であるとしてゐるが、果して北方支那に古代の家族共同體が多く殘存し、そのために集村が支配的なのであらうか。不安に

#### 支那の村落

して防禦の要ある場合農民は村に集るも、安全が保障されると分散定住するに至る。この原則は支那村落の南北兩型に於ても亦該當するであらうか。ドマンデヨンは亦遊牧時代の居住は孤立・分散であるが、定期再分割時代に入つて分散又は集中となり、農業共同體内部の固定所有地時代になつて集村を呈し、専門化耕作時代に散村となるとの見通しを樹てゐるが、支那村落は果して、どれに組み入れ考ふべきか。ドマンデヨンは之に關し何等の説明をも加へてゐないが、彼の基準に照しつゝ、具體的に支那村落を調査し行くことは今後に残された極めて興味深き問題の如く思はれる。ドマンデヨンは田舎共同體に關し、その進化過程を、原始的田舎共同體(*La communauté rurale primitive*)、組織化村落共同體(*La communauté villageoise organisée*)、近代の田舎共同體(*La communauté rurale moderne*)に分つてゐるが、支那の村落は原始的田舎共同體より組織化村落共同體に進みしものとし、原始的放浪村落が永久的居住に轉化したものであるとしてゐる。而して

2) Demangeon, La géographie de l'habitat rural. Annales de Géographie No. 199. 拙稿、田舎居住の起源とその原因、農業と經濟第五卷一一號。

この固定化を可能ならしめたものは實に米作であつた。米作は多くの難業苦行を要求し、かく投下され、組織化された土地は他の目的に使用するを得ず、永住的な共同體を作り出したとする<sup>3)</sup>。併し乍らこの點に關するドマンデヨンの見解は極めて大ざつばであつて彼が多く<sup>4)</sup>の示唆を受けし米國農村社會學界の巨匠サンダーソン(Sanderson)教授のその精細なると比すべくもない。

## 四

サンダーソン教授は現代米國の農村社會は大部分近代的田舎協同社會(The modern rural community)なりと見、これに到達すべき過程を廣汎なる歴史的比較研究によつて究明し、農村共同社會の諸類型をその進化過程に於て(一)原始的農村(The Primitive Agricultural Village) (二)村落共同體(The Village Community) (三)近代的農村(The Modern Agricultural Village) (四)近代的田舎協同社會(The Modern Rural Community) (五)巨大農場(The Large Rural Estate)の五に分類してゐる<sup>5)</sup>。サンダーソンは第二段の型式の代表的事例を現代

に於て求むれば、支那村落であるとし、之を可なり詳しく述べてゐる。サ氏による第二段の村落共同體なるものは、本來血縁者の集團であつて、その居住は永久的な村の内に集り、多少共有地を有し、村の境界も明確になつてゐる。第一段の原始的農村にては女のみが農耕をなし、種族は移動的で、例へばジユム耕作法が行はれたが、第二段にては同一土地に不斷に農業が經營さるゝに至り、そのため村は固定し、住居及制度のより進歩した型式が出来、鋤や車や家畜が大いに利用され、より廣い田畑が男子によつて耕作される。施肥・灌漑・家畜の飼育が行はれてゐる。かゝる型式は古代文明及中世歐洲一般に行はれたものであつて、現代の支那には尙これが濃厚に残存して見られるとサンダーソンは説く。かくてサ氏は Paul. R. Young, Chung Le Lieu, Losing Buck 等の研究を援用し、これに據りつゝ、説明を加へてゐる<sup>5)</sup>。

バックは支那の村落を小村(hamlets)農村(farming villages)市場町村落(market-town village)の三に區別づけて

- 3) Demangeon, Villages et communautés rurales, Annales de Géographie, No. 38. 拙稿、ドマンデヨン・村落と田舎共同體、經濟論叢第四七卷二號。
- 4) Sanderson, The Rural Community pp. 30-31.
- 5) Sanderson, op. cit. pp. 153-167.

る。<sup>6)</sup> 小村は二乃至十の家族より成り、地方一般に多く見られるが、殊に東中部に多い。農村は十乃至百家族を含み、地方全般に普通であるが、特に東中部よりも北支に於て大である。市場町村落は最少でも百家族を有し、多いものになると数千家族よりなるものである。

但し南方にては農村と市場町村落との區別が得られない。個有の村落部分は防壁せられ、田園から分離されてゐる。南支にては村落内に道路とてはなく、家と家との間に通りがあるに過ぎないが、北支にては正しく眞直ぐなる道路があり、街村の姿を呈してゐる。村落は家族村落 (family-village) で、その各家族は結合家族 (joint-family) にあつて、更に大なる宗族 (gens, clan) に包括せられ、各部落は多くの場合二・三宗族の結合體であり時として一宗族が一部落を構成する例も少なく、一宗族にて二以上の部落を作る場合もある。宗族の祖先祭祀の寺院が農村にあるのが普通であり、中南支にては小村に共同祖先に對する數家族の小祠がある。北支には市場町村落があるから、各農村には店舗が少ないが、南方にては農村に商店があり、それ等は

概ね臨時的定期市的なものである。

サ氏の説明を通じて、北支が集村であり、南方には散村が支配的であることが窺はれる様に思ふ。併し中南方に分散的居住が一般的であると云つても、それは散村・小村を意味し、孤立農家・莊宅は西方支那即ち山多き四川省に於て認め得るのみである。

## 五

ブラアシュ、ドマンジョンの見解によると支那の村落は北方は集村、南方は散村と認定される。この見解は別に具體的な調査に基くものと見受けられないが、一つの見通しとして興味ある類別と考へる。サンダーソンは支那村落を以て血縁集團村落の代表的型であるとし、家族・宗族を以て構成されてゐる支那の村落社會を描き出してゐるが、その説明を通じて、北支の團集型、中南支の分散型が認められる。支那村落の研究は、實際に即した踏査・調査の上に樹てられねばならぬことは勿論であらうが、これ等歐米學者の見解も亦一つの見通しをつける上の何等かの手がかりとして意味があるであらう。

6) Lossing Buck, Chinese Rural Community.  
7) Chian & Buck, The Composition & growth of Rural Population Groups in China, The Chinese Economic Journal, March, 1928. p. 220. Tayler, The Study of Chinese Rural Economy.